

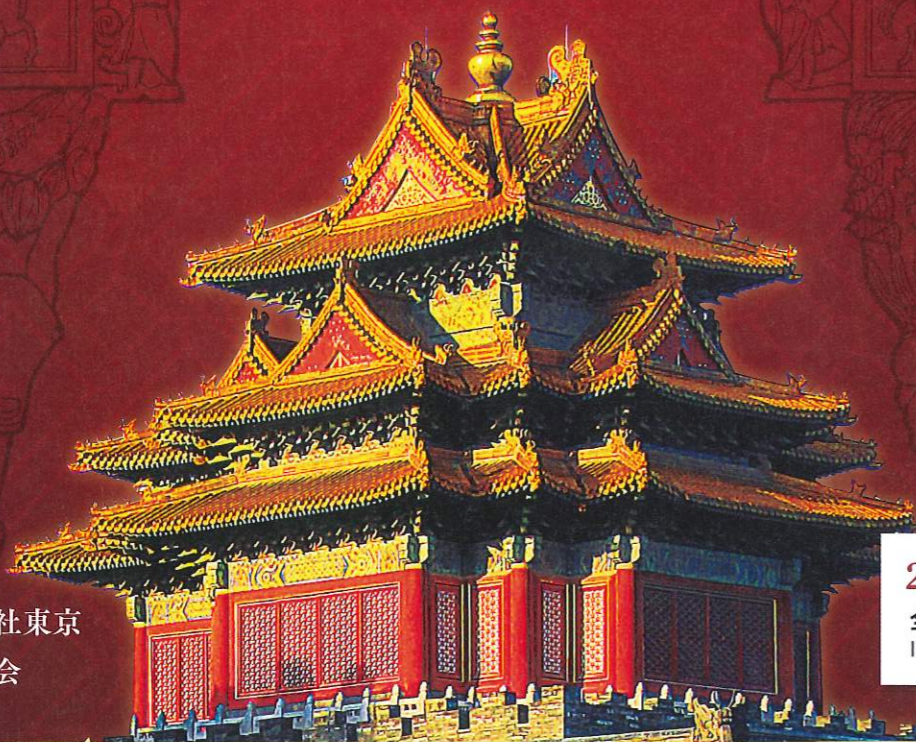
屋根、扉・窓、基壇——

さまざまな建築装飾の特徴や芸術性を読み解く決定版

中国の建築装飾

[著者] 楼慶西

[訳者] 李暉・鈴木智大

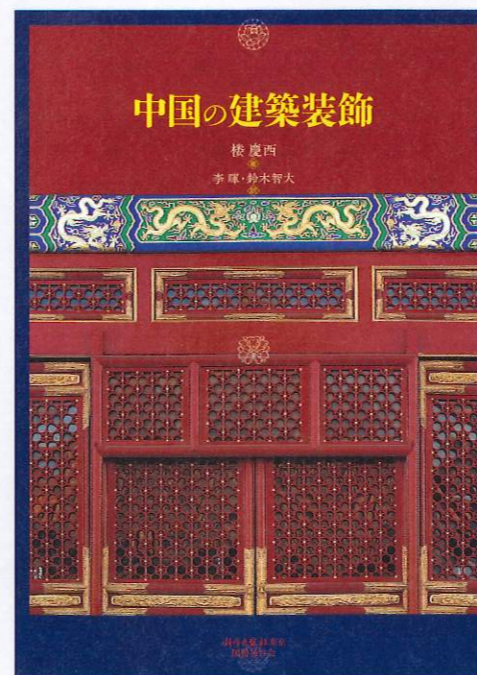


発行 科学出版社東京
発売 国書刊行会

2021年7月刊行
全一巻 オールカラー
ISBN:978-4-336-07234-4

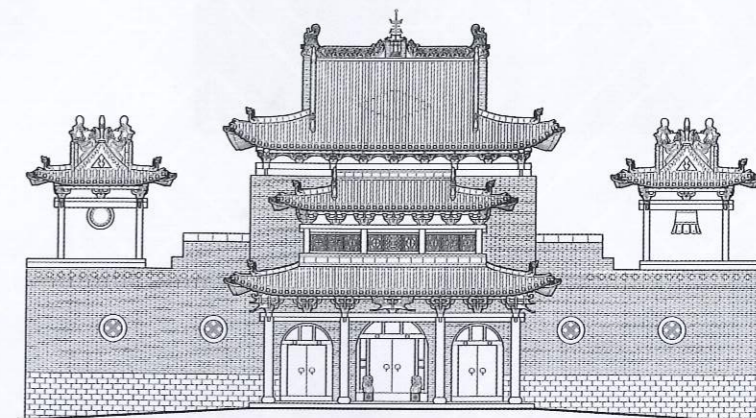
本書の特徴

- ◆ 中華世界の中心である紫禁城などの宮殿建築から、四合院といった伝統的住宅に至るまで、中国建築の屋根、扉・窓、基壇などに施された建築装飾を、彩色・彫刻・文様などあらゆる側面から分かりやすく読み解く。
- ◆ 中国建築史研究の大家による詳細な解説とオールカラーの美しい写真により、豊富な具体例を示しながら、時代や地域を越えた中国建築の歴史、さらにそれらの底流にある中国文化に対する理解を深める一書。
- ◆ 日本語版オリジナルの各種索引（建築用語等、建築物・庭園、地名）を完備。さらに訳者による「中国建築用語解説」を掲載し、レファレンスとしても有用。



本書をおすすめします

- ◆ 建築史の研究者／工学部・建築学部
- ◆ 装飾・デザイン研究者／芸術系学部
- ◆ 中国文化史研究者・日中比較文化研究者／文学部
- ◆ 建築士、デザイナー、建築会社
- ◆ 美術館、博物館、都道府県立図書館、市町村立図書館、高校図書館など



『中国の建築装飾』

[著者] 楼慶西

[訳者] 李暉・鈴木智大

全1巻・B5判上製・263ページ・オールカラー

定価：本体7,800円＋税

ISBN：978-4-336-07234-4

発行：科学出版社東京

発売：国書刊行会

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15 TEL:03-5970-7421 FAX:03-5970-7427
<https://www.kokusho.co.jp> e-mail:info@kokusho.co.jp

取扱店

申込書

ご記入後、お近くの書店へお持ち下さい。

『中国の建築装飾』（定価：本体7,800円＋税）を _____ 冊 注文します

お名前

ご住所

お電話

中国建築の装飾の魅力を存分に伝える専著

奈良文化財研究所 李暉・鈴木智大

本書は原題『美輪美奐―中国建築装飾芸術』の日本語版である。「美輪美奐」とは建築が壮大で美しい様子をあらわした成語で、著者・楼慶西氏の中国建築の美しさに対する思いが込められている。本書は、長く清華大学で教鞭を取り、中国建築史研究を牽引してきた著者が、中国伝統建築の装飾の魅力、ひいては中国文化を世界に伝えようと企画された。訳者は、日本で中国建築史研究に携わる者としてその志に共感し、同書の翻訳にあたった。

本書では各章の主題に沿いながら、時代や地域を越えた中国建築に底流する文化を、豊富で美しい図版と写真で読者に伝える。実証主義的な日本の建築史研究に対し、中国の建築史研究は文化論的な色彩が濃い。この差異を念頭に置いて本書を通読すれば、中国建築史に対する理解が深まるであろう。

なお、本書の翻訳にあたって、本文は日本の読者が読み易いように、可能な限り日本の建築用語を用いるよう努めた一方、巻末に中国建築用語解説を付した。中国建築史の世界へ一歩を踏み出す読者の手助けとなれば幸いである。



概論

1. 中国古建築の特徴
2. 中国古建築装飾の起源
3. 中国古建築装飾の内容と表現手法

第1章 さまざまな門の美しさ

1. 都城・宮殿の門
2. 住宅の門
3. 祠堂の門

第2章 屋根の造形

1. 軒の跳ね上げ
2. 大棟の正吻
3. 降り棟の小獸
4. 屋根の組み合わせ

第3章 彫刻と彩色画

1. 梁・貫の装飾
2. 柁墩の装飾
3. 撐拱と牛腿
4. 彩色画の装飾

第4章 扉と窓の装飾

1. 格子戸
2. 牆窓
3. 庭園建築の扉・窓

第5章 基壇とその彫刻

1. 基壇の形式と装飾
2. 基壇の高欄
3. 基壇の階段

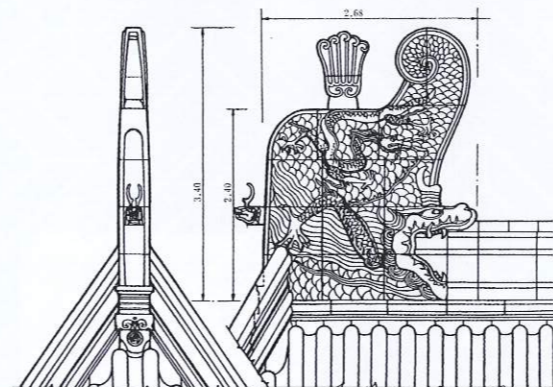
図版出典・主要翻訳参考文献

著者あとがき

訳者あとがき

索引

中国建築用語解説



組見本(原寸52%縮小)

(1) 建物の扉・窓

庭園の庁堂は主人の接客・集会の場所であり、往々にして庭園の中心に位置し、素晴らしい景色に囲まれる。そのためこのような庁堂の格子戸の多くは障板と縦横板を設けず、格心の格子も非常にまばらで、ガラスを嵌め、上から下まで透明にする。庁堂の中から外の景色を鑑賞できるようにして、人と建築が自然環境の中に溶け込むようにしている。格子戸のほかに、庁堂には窓も設ける。この窓の特徴は格子がまばらで、多くは四角に格子を廻らせ、中央を空白として格子をいれず、外の景色を鑑賞できるようにしている。格子戸を設けず窓枠のみとするものもあり、「空窓」と呼ばれる。空窓の外は、石積や苔竹、芭蕉の花や木を組み合わせて景色とする。主人は空窓の両側に対聯(建物などに掲げる対となる句。ここでは、対句を書いた掛軸をさす)を掛け、窓の上に扁額を掛け、窓枠を簡略とするので、窓の外は景色は「窓画」と呼ばれる。窓画は四季の移ろいや、晴れ・雨・雪といった天気によって変化し、一般的な絵画に比べてさらに豊かで生き生きとしている。



江蘇省蘇州の庭園の庁堂の窓



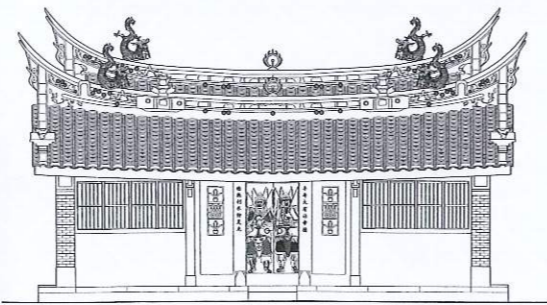
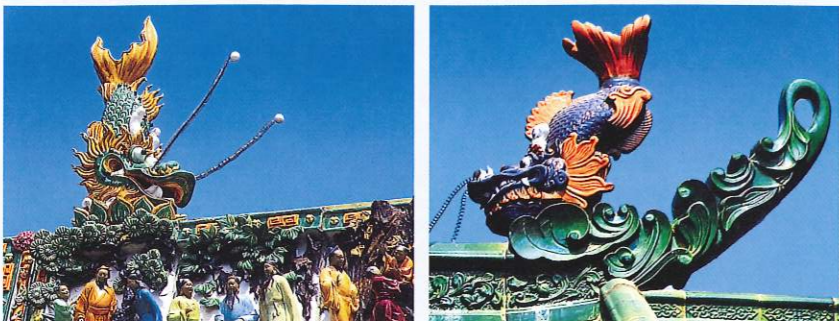
江蘇省蘇州・拙政園造香堂の格子戸

3. 庭園建築の扉・窓

中国古代の庭園は自然景観型の庭園で、工匠は山・水・植物・建築を四大要素として組み合わせて配置することで、人々が喜ぶさまざまな景観を造る。その建築の扉や窓も造景における要素となり、庭園建築の扉や窓は、人の建物への出入り、通風・採光の役割を果たすほかに、景観を造り、鑑賞する機能を兼ね備えている。



江蘇省蘇州の庭園の庁堂の窓



著者略歴

楼慶西 (LOU Qingxi)

清華大学建築学院教授。中国古代建築の歴史・理論研究と教育に従事。主要な著作に、『中国古建築二十講』(生活・読書・新知三聯書店、2001年〔日本語訳:高村雅彦監訳『中国歴史建築案内』TOTO出版、2008年]),『中国伝統建築文化』(中国旅游出版社、2008年),『中国古建築装飾五書』(全5冊、清華大学出版社、2011年)ほか多数。

訳者略歴

李暉 (LI Hui)

奈良文化財研究所アソシエイトフェロー。主要論文に、『『营造法式』からみる中国宋代の製材工程』(『建築の歴史・様式・社会』中央公論美術出版、2018年)など、著書に、『『营造法式』にみる中国宋代における設計原理と部材加工技術』(東京大学学位請求論文、2015年。アジア太平洋研究賞(井植記念賞)佳作受賞、2016年)などがある。

鈴木智大 (すずき ともひろ)

奈良文化財研究所主任研究員。主要論文に、『日本と中国における繋貫の出現と変容』(『建築の歴史・様式・社会』中央公論美術出版、2018年)など。編著書に、『北口本宮富士浅間神社建造物総合調査報告書』(北口本宮富士浅間神社、2016年),『山木遺跡出土建築部材調査報告書』(奈良文化財研究所、2011年)などがある。

